

聖書日課 『からし種』 2023.10.15-10.22

<p>10月15日 (日)</p> <p>ヨブ記 12章</p>	<p>「あなたたち同様、わたしにも心があり／あなたたちに劣ってはいない」(3節)。ヨブにも心がある。それは他の誰もと同様に保たれていた。サタンはヨブの財産と家族、そして骨と肉の休息を奪ったが、「心」にまでは手を出していなかったことになる。その心を今、ヨブの友人たちが励ますつもりで逆に揺るがしているとは。人を言葉で励ます難しさを知らされる。</p>
<p>16日 (月)</p> <p>ヨブ記 13章</p>	<p>「呼んでください、お答えします。わたしに語らせてください、返事をしてください。...なぜ、あなたは御顔を隠し、わたしを敵と見なされるのですか」(22-24節)。全能者である神は、人の心を全て知っておられる。だから御声がききたい、語りかけたい。人も、野の獣や海の魚と変わらず「あなたがみ顔を隠されると、あわてふためく」(詩篇104:29、口語訳)。</p>
<p>17日 (火)</p> <p>ヨブ記 14章</p>	<p>「花のように咲き出でては、しおれ／影のように移ろい、永らえることはない。あなたが御目を開いて見ておられるのはこのような者なのです」(2-3節)。しおれた花のような自身の上に、さらに注ぐ神の御目の厳しさ。心身の痛みは計り知れない。それでもヨブは生死を神に任せ、命がある限り神に訴え続ける。旧約の信仰者の凄みを感じる。</p>
<p>18日 (水)</p> <p>ヨブ記 15章</p>	<p>「なぜ、あなたは取り乱すのか。なぜ、あなたの目つきはいらだっているのか」(12節)。信仰の友であるヨブが取り乱し、いらだちの目をこちらに向けるのを見た友人たちの動揺も仕方ないと思う。私たちの信仰がなくならないように祈ってくださるイエス・キリストがハッキリ語られていない旧約聖書のもどかしさ。でも、きっとこの時もキリストは彼らの間におられたはず。</p>

メール配信登録メール senfkorn.obc@gmail.com

大井バプテスト教会

メール配信希望の方は名前とアドレスを明記の上、上記のアドレスまで

聖書日課 『からし種』 2023.10.15-10.22

<p>19日 (木) ヨブ記 16章</p>	<p>「このような時にも、見よ／天にはわたしのために証人があり／高い天には／わたしを弁護してくださる方がある。わたしのために執り成す方、わたしの友／神を仰いでわたしの目は涙を流す」(19-20節)。苦しみのさなかにヨブの心の奥から引き出された「わたしのために執り成す方、わたしの友」なる主への想い。ただ心を合わせて祈りたい。</p>
<p>20日 (金) ヨブ記 17章</p>	<p>「あなた自ら保証人となってください。ほかの誰がわたしの味方をしてくれましょう」(3節)。旧約聖書で「保証人」は、我が身をもって友の苦難を受ける人。突然の病を告げられたヒゼキヤ王も「わが主よ、どうかわたしの保証人となってください」と叫んだ(イザヤ38:14)。人々のこの求めに答えて、神はイエスをわたしたちの保証人として遣わされたのだと知る。</p>
<p>21日 (土) ヨブ記 18章</p>	<p>「神に逆らう者の灯はやがて消え／その火の炎はもはや輝かず…彼の力強い歩みも弱まり／自分自身の策略に倒れる」(5-7節)。「悪は今は栄えてもやがて滅びる」の言葉を繰り返す友人たち。彼らも父祖たちも絶えず誰かに苦しめられながらこの言葉を希望として来たのだろう。しかし真の希望は敵の滅びではなく、苦しみからの解放にあるのではないか。</p>
<p>22日 (日) ヨブ記 19章</p>	<p>「わたしは知っている。わたしを贖う方は生きておられ／ついには塵の上に立たれるであろう」(25節)。19章には深い暗闇に呑み込まれたヨブの絶望の呻きが刻まれている。「どうかわたしの言葉がたがねで岩に刻まれ…いつまでも残るように」(23-24節)。その暗闇の奥底においてなお「わたしを贖う方は生きておられる！」と神に向かうヨブの信仰に心打たれる。</p>